

質問 67 第六の戒めは、何ですか。

答え I 第六の戒めは、「殺してはならない」です。

質問 68 第六の戒めでは、何が求められていますか。

答え I 第六の戒めは、私たち自身の命と他の人々の命を守るための、あらゆる合法的な努力を求めています。

1. 「殺してはならない」という第六の戒めで、求められるのは何ですか。

第六の戒めは、神の形として造られた人の命が尊いということを現しています。従って、第六の戒めでは、自分の命と他の人の命を守るための合法的な努力が求められます。暴力から自分を防御し、食べ物と睡眠と余暇生活を通して自分の命を良く保たせなければなりません。他の人の命も保たせるためには、他の人を危険な状況に陥らせて命を失うようにさせる、すべての考えと行為を避けて抑制すべきです。

2. 自分の命と他の人の命を守る上で、 合法的な努力の範囲に制限させる理由は何ですか。

自分の命と他の人の命を保たせるために、不法的な手段などを禁じています。

不法的な手段というのは、真理を否定すること（I テモテ 1:19-20）、嘘をつくこと（創 12:12-13）などです。聖書は、自分の生活を守るために真理を否定するより、真理を大胆に語り、命を失うことがましだと語っています（使徒 7:54）。嘘によって自分の命を守ることを禁じる理由は、悪を行いながら善の実を刈り取ることはできないからです（ロマ 3:8）。

3. 自分の命と他の人の命を守るために求められる、 キリスト者の徳目は何か。

他の人の命を守るために、キリスト者に求められる徳目は、愛、慈悲、柔和、親切です。人間関係での争い、暴力を起こす理由は彼らの弱さのゆえです（箴言 10:12）。このような弱さを覆うのは愛です。人々が災いと同じような災難に出会ったとき、彼らを助けようとする慈悲の心がなくてはなりません（ルカ 10:33-34）。柔和とは、親切でない心、暴力的な感情をコントロールする機能を持ちます（コロサイ 3:12）。勿論、穏やかな対話を通して悪い行為などを抑制することもできます（I コリント 13:5）。従って、キリスト者のこのような徳目は、社会における暴力的なことなどを統制する機能をします。

4. 第六の戒めでは、災いと困難に置かれている人々に対して、 どのような義務が求められていますか。

災いと困難に置かれている人々に実際的な助けを与えるべきです。良きサマリア人のように、命を守るためにすべての処置を取るべきです（ルカ 10:37）。聖書は、やもめと孤児は必ず助けるようにと語っています。彼らは、自分の力では自分の命を保たせられない場合に該当します（ヤコブ 1:27）。一方で、悲しみに陥っている者を慰めることも含まれます（箴言 12:18）。このように、他の人の命の維持のために努力することを、慈悲の働きと言います。これは、自分に恵みがあることを証しする手段となります。口先だけで、実際に助けない

のは罪です（Iヨハネ 3:17-18）。

5. 他の人の命を守るために努力したことに対する、 神の答えは何ですか。

第六の戒めは私たちに、困難に置かれている者を助けなさいと命じています。神は、私たちが信仰によって行ったすべての慈悲の行為を覚えておられます。羊と山羊との比喻で、救われた民に該当する羊の系列の人々に慈悲の行いがあったことを認めました（マタイ 25:34-36）。それは、彼らの慈悲の行為によって、彼らが救われたという意味ではありません。彼らには、まことの救いの信仰があつて慈悲の行いがあつたこと、さらに、自分たちの慈悲行為を義の根拠としていないことを現しています。私たちの慈悲行為は、神に栄光を帰すことになります。神から受けた豊かな恵みを、他の人に分け合うことは神の豊かさを証しすることです。

質問 69 第六の戒めで、何が禁じられていますか。

答え I 第六の戒めは、私たち自身の命や 隣人の命を不当に奪うこと、あるいは、そのような結果に導くすべてのことを禁じています。

1. 第六の戒めで、一般的に禁じているのは、何ですか。

第六の戒めで一般的に禁じているのは、自分の命を自ら断つこと、他の人の命を奪うことです。第六の戒めの「殺してはならない」というみことばの意味は、他の人に害を及ぼしてはならないということです。「殺してはならない」という戒めは、他の人に怒ること、他の人を妬むこと、他の人を憎むことが罪

だと語っています（Iヨハネ 3:15）。他の人を誹謗中傷したり、その名誉に損傷を与えるのも殺人と同じです（マタイ 5:21-22）。このように、心と言葉と文字によって人を殺すこともできます。まして、体の命は奪わなかったとしても、殺人罪に該当されます。

2. 心の殺人罪とは どのようなものがありますか。

怒り、憎しみ、妬み、復讐心が、心によって殺人をすることです。キリストは、怒りが殺人罪に該当すると直接仰せられました（マタイ 5:22）。隣人に対する憎しみも、まして命は取らなかつたとしても、殺人罪に該当されます（Iヨハネ 3:15）。他の人を妬み、密かにその命が危険に置かれるように望むのも殺人罪です（箴言 27:4）。復習しようとする心も殺人罪に該当されます。聖書はすべてのことを公正に判断して、相応しい裁きをなさる方はただ神以外はいないと語っています（ロマ 12:19）。

3. 執行される殺人罪には、どのようなものがありますか。

言葉によって隣人や他の人の命を脅かし、悪口を吐いたり嫌味を言うのも殺人を犯すことです（マタイ 5:22）。他の人を呪ったり嘘で訴えたり、その人の体に害を及ぼすのも殺人を行う行為です（イザヤ 3:14-15；ミカ 3:3）。勿論、行為によって人を殺すのが殺人罪ですが、虐げる（エゼキエル 18:18）叩いたり、喧嘩によって傷を負わせるのも殺人者に該当されます（民 35:21）。他の人が苦しみと危険に置かれているにも関わらず、それを知らん顔で助けないのも殺人罪です（アモス 6:6）。

4. 殺人罪はいつから始まりましたか。

アダムとエバは、エデンの園にて神から戒めを受けました。善悪の実を食べ

てはならないということでした。しかし、戒めを犯した場合には必ず死ぬと仰せられました（創2:17）。しかしエバは、神の戒めを意図的に破ってしまいました。そのため、人類に罪が入って来て、罪によって神の裁きである死が入るようになりました。アダムとエバが神の戒めを破ったことで、自分たちに死が入るようになり、人類に死をもたらしてしまったのです。アダムとエバは殺人罪を犯したのです。そして、アダムとエバの子孫であるカインは、自分の弟であるアベルを殺す殺人罪を犯しました（創4:8）。殺人罪は人類の祖先であるアダムとエバから始まったことでした。

5. 自分の命を自ら断つというのは、人の命を取るのと同じ 殺人罪とする理由は、何ですか。

自殺は、自分自ら命を断つということですが、殺人です。人には自らを保たせようとする性向が植えられているので（ヨブ2:4）、自殺は自然の原理に逆らうこととなります。聖書において、自殺の場合はサウル王とアヒトフェルとイスカリオテ・ユダをあげることができます。自分自ら命を絶つ場合、霊的に傲慢で神を軽蔑することが、その背後にあります。イスカリオテ・ユダの場合、神に徹底して悔い改めながら恵みを求めなければならないのに、自ら命を絶つことで、神に赦しを求めるのを断ったのです。勿論、極めて厳しい現実による挫折感と、憂うつによって自殺をする場合がありますが、これもやはり霊的傲慢です。被造物として全能者である神に進み出て助けを求めるべきなのに、神に頼るのを断り命を絶ってしまうからです。従って自殺は、悔い改めと主を頼るのを断る傲慢の罪であるから、決して軽い罪ではありません（ロマ2:5）。

6. 自殺の場合は どの範囲まで適用できるのでしょうか。

自分自ら危険に落として死に至らせるのも自殺です。自分の体が痛いのに一般的な手段である医者を探して尋ねないで放置させて、死に至らせるのも自殺

に該当されます。体に害となる影響を与える中毒のような習慣などで、健康を壊して死に至らせるのも殺人罪になります。体を完全に損傷させる労働も含まれます。聖書は不必要な危険に自分を露出させるのを禁じています（Ⅱサムエル 23:16-17）。命を与えた神の主権を考えた時（Ⅰサムエル 2:6）、自分の命を危険にさらすのは傲慢です（Ⅰサムエル 31:4-5）。

7. 第六の戒めを通して知ることができる、霊魂を殺す殺人者の危険性は何ですか。

第六の戒めで、人の体を殺す殺人者は、深刻な罪人であることを知ることができます。それなら、人の霊魂を殺す罪は、最も重い罪だということを告げています。一番、極度な殺人者は、霊魂を殺す者です。自分の霊魂の霊的状态について考えもせず、自己の罪について深刻に考慮しない者たちは、自分の霊魂を殺す殺人者です。彼らは、自分の霊魂の命のために決してキリストに出て来ようとはしません（ヨハネ 5:40）。一方で、偽りの教えによって霊魂を殺す者たちも、深刻な殺人者です。偽りの教えとは、救いに対する間違った確信を持たせ、しまいには、永遠の裁きに至るようにさせるからです（エゼキエル 13:19）。